



さあ、

# 子どもたちと ふれあおう!



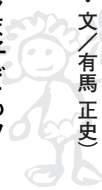
## 子どもたちの創造するエネルギーが見えた!

### 一放課後子ども教室「たじま子どもクラブ」(福島県)一

南会津町立田島小学校放課後子ども教室「たじま子どもクラブ」には、在校生317人中130人ほどが登録。一日の参加者は平均20人ほど。1年生から3年生の低学年の参加が多い。2004年の文部科学省の地域

子ども教室推進事業で設立されて5年、子ども主体の活動に取り組んでいる。今回は、その中の1つ、収納のための段ボール箱から始まったユニークな遊びを紹介する。

(取材・文/有馬正史)



田島小学校の校舎2階の奥に「たじま子どもクラブ」が活動する「なかよしルーム」がある。中に入るとすぐに、大きな段ボール箱のかたまりが目に入る。よく見ると、段ボールハウスだ。コーディネーターの古川千恵子さんに段ボールハウス

づくりのきっかけを聞いた。「初め、道具を入れる箱が欲しくて、リング箱ぐらいの段ボール箱をいくつか集めていたんです。そうしたら、子どもたちがそれを見つけて、その中に入って絵や窓を書き始めたんです。そこで、子どもたちに段ボール箱をあげてみようということになり、スタッフたちが買い物ついでに近くの電気屋、建築屋さんからテレビ等の入っていた空段ボール箱を集めてきました。すると、子どもたちが自分たちから勢いよく家づくりを始めたんです。この遊びは月2回行っています。今日(08年11月19日)で5回目です」と話してくれた。



自分たちの家づくりに  
家の中まで入念に仕上げる



1つの段ボールハウスはとんがり屋根に窓があり、子どもたちが這って中に入れる。驚いたことには段ボール同士がガムテープで継ぎ足され、いくつもの部屋に分かれており、覗いてみると部屋と部屋の間には布のカーテン(?)が掛けられ、ちゃんと仕切られている。みんな子どもたちが考えて作ったものだと言う。話を聞いているうちに、放課後のチャイムが鳴り、子どもたち20人ほどが駆け込んできた。あつという間に子どもたちは段ボールハウスに群がり、カッターナイフやハサミなども自由に使って、破壊と創造を繰り返しながら、段ボールハウスを組み立てていく。1つの段ボールハウスには8人ほどの異学年の子どもたちが協同して四方八方から手を加えている。生き物のように変化する段ボールハウスは、子どもたちの自由な、そして、とてつもない創造するエネルギーそのものに見え、感動さえ覚えた。

1年生の星そら君は「段ボールハウスは、自分で好きに作れるから楽しい」、2年生の須佐楓愛さんも「たじま子どもクラブは楽しい。特に家つ

くりは大変だけど大好きです。やったことのない新しいことしてみたい」と2人とも満足顔。多少のいざごさは子どもたちが自分たちで解決し仲良くなっていると言う。子どもたちにナイフやハサミなどを自由に持たせる

ことについて古川さんは「禁止することは簡単ですが、子どもたちの想像力をつぶしたくありません。それでは広がりがなくなります。危ないところはスタッフが常に見守っています」ときっぱり「学校、家庭、スポーツ少年団ではない、自分で考え行動できる場」づくりに向かって「たじま子どもクラブ」は進んでいる。高価な遊具はなくても、子どもたちの興味を見つけ、協力しながら創造する力を信じる。このような放課後子ども教室が全国に広がってほしいと思う。



段ボールハウスはガムテープで継ぎ足されて次第に大きくなっていった

